- ② ゴミの安全な処分を進めるための衛生埋立地の建設
- ③ 医療廃棄物の焼却処理施設
- ④ コンポスト化施設

このなかでも、衛生埋立地の建設は緊急性を要する重要な事業である。CDA は、現在イスラマバードで発生するゴミを暫定的な処分場で処分しているが、暫定処分場の環境対策は十分ではない。早急に、衛生埋立地の建設を進める必要がある。この衛生埋立地建設の緊急性については、CDA も十分に認識しており、既に、CDA は新衛生埋立地建設のための用地をクリ村に確保し、埋立地の実施設計に着手している。また、埋立地建設のための環境アセスメントも実施され、調査団がイスラマバードに滞在中の8月19日(土)に環境アセスメントに関する公聴会が開催された。調査団はこの公聴会に傍聴参加した。





図-3 CDA の暫定処分場の状況

図-4 新埋立地建設予定地

一方、平成17年度に実施された本邦研修(パキスタン国別特設廃棄物管理コース)で日本の廃棄物埋立処分技術が研修参加都市に伝えられ、CDAの研修参加者はイスラマバードでの日本の埋立技術の適用に意欲を有している。今回の事前調査においても、調査期間中にCDAからJICAパキスタン事務所に対して衛生埋立地建設への技術支援要請がなされるなど、本邦技術の適用への関心と意欲が示されている。

前述のように、CDA は新衛生埋立地の実施設計に着手しており、その図面の写しを調査団は受領し、技術的な観点から精査した。その結果、下記のとおり、いくつかの重要な課題が発見され、CDA 側にコメントを述べた。

- ① 雨期の大きな浸出水の発生量に対する備えが不十分に見える。
- ② しゃ水エライナー下部の地下水の揚圧力に起因するライナーの破損を回避するために地下 水集排水管が必要だが、現設計ではない。
- ③ 浸出水集排水管のサイズが小さく、短期間で管が閉塞する危惧がある。
- ④ 嫌気性埋立構造を採用することとしているが、有害ガスの発生、高濃度の浸出水の発生、 埋立ゴミの分解に長期間を要するなどの問題が懸念される。

パキスタンでは、これまで衛生埋立地建設の実績がなく、実施設計・建設・運営管理・環境モニタリング等に関して、現場の実務作業を含む埋立技術を CDA に本プロジェクトのなかで技術移転することは意義が高いと考えられる。 CDA が衛生埋立地の建設・運営・環境モニタリング技術を習得すれば、これらの技術は CDA を通してパキスタン国内の主要都市に伝搬していくことが期